

雑感



林務観光部長
原 田 俊 隆

他県から訪れる人々に、熊本的印象如何と尋ねると、殆んどの人が「緑豊かだいいですね」と言ってくれます。いくらかのお世辞を含めての言葉であろうとは思いますが、林務担当の責任者として、決して悪い気持はしないものです。

しかしながら、本県林業の現状について、冷静に考えてみると、決して喜んでばかりはいられないのが現実の姿です。

(一) 本県には、総面積の六二%に当たる約四十六万haの森林があります。そのうち、私共が平素行政指導の面でタッチしている民有林は約三十九万三千haですが、その五九%に当たる二十三万二千haが人工林です。

ご存知のように、本県の人工林の大部分は三十年生以下のいわゆる若齢林で占められ、丁度、間伐をしなければならぬ時期になっていきます。

以前は間伐材といえは、杭木や足場丸

太として需要もかなり多く、相当良い価格で売れておりましたが、現在ではそれらの需要も少なく、間伐しても赤字が出るという困った状況です。しかし間伐するには「適期」がありますので、現在間伐材が売れないからもう少し先に延ばそうという訳には参りません。

いかにして、間伐を促進し、将来、熊本県産材の価値を高めるかが、重要な問題の一つになっております。

(二) 次に、国内産の木材、特に本県産の木材を大いに使って欲しいと思います。前にも述べましたとおり本県の人工林の大部分は若齢林ですが、何と言っても全国有数の林業県ですから、毎年相当量の木材を生産しております。しかし、現在価格の安い外材が大量に輸入されるため、国内産の木材の価格は低迷し、売れ行きも余り良くありません。

私共は、かねてから、林道や作業道等

をなすだけ多くつくって、木材の生産コストを引下げ、外材との競争に打ち勝つように努力しておりますが、限られた予算ではそれもなかなか思うとおりになりません。

国内産材は、外材に比べて価格の面では幾分か割高になりますが、優れた点が多くありますので、今後住宅等を新築される際には、できるだけ本県で生産された木材を使用していただくようお願いいたします。

(三) 木材のほかに、私共が力を入れておりますものに特用林産物があります。しいたけ、栗、筍、竹材等です。

その中で、一番大きなウエイトを占めるものは、しいたけです。本県は全国でも有数のしいたけ生産県になっておりますが、しいたけを生産するに必要なくぬぎ等の原木を他県からかなりの量移入しています。現在、松くい虫でやられた跡地などにくぬぎを植えて、一日も早く自給自足できるように努力しています。

しいたけは林家経営の中で、短期収入源として大きな役割を持っておりますので、今後、品質を向上し、収量も増やし、名実共に熊本しいたけの価値を高からしめたいと考えています。

四 林務観光部は、その名称が示すとおり、林業関係のほかに、観光関係の仕事もしています。「本県の観光をいかにして振興するか」ということが、私共が常に考えている問題ですが、観光は関連する部面も極めて多種多様でかつ広い範囲にわたるため、なかなか難しい問題です。

昭和五十二年一月から十二月までの一年間に、県内観光地を利用された観光客の延べ人員は約二千二百万人で、本県内で消費された観光消費額は、約八百八十億円にも達しています。

幸いにも、本県には世界に誇る阿蘇をはじめ、風光明媚な天草や県内至るところに湧出する温泉群、その他名勝旧跡も多く、観光資源の豊富なことは、すでにご存知のとおりです。

また、本県には豊かな水と緑、新鮮な山や海の幸も多く、これらの観光資源を総合的にうまくまとめ、強力な観光事業を推進致しますならば、今後の本県観光の発展は、大変期待できると思えます。

関係各位のご協力を切にお願い致します。

県立江津高校が開校

定時制、通信制の独立校として県立江津高校（中山真一校長）が熊本市出水四丁目に開校した。

同校は定時制、通信制だけの学校であり、勤労青少年が勤労と学習に少しでもゆとりをもって学校生活を送れるように施設設備や日課表なども工夫をし、豊かな個性と人間性を備えた人材の育成を目指している。

総工事費約12億円。課程は定時制（普通科、商業科、衛生看護科）通信制（普通科）。



「一生懸命がんばります」と宣誓する新入生代表の高森文子さん。